下野市立南河内第二中学校

平成29年度

第４号

Ｈ２９．５．２９
発行者
上野　保久

校長室だより

修学旅行に行ってきました。

５月１４日（日）から１６日（火）まで、２泊３日の修学旅行に行ってきました。好天に恵まれ、傘の心配は一度もありませんでした。奈良･京都の町は修学旅行生でごった返しておりましたが、それぞれの計画をもって準備し、それぞれの思いを抱きながら、今ここにいるのだろうなと思うと、とてもほほえましく、よい修学旅行であることを祈るばかりでした。もちろん、本校生の修学旅行の成功を祈るのは当然のことですが・・・。

この３年間、二中３年生の修学旅行の引率をして参りましたが、一度も恥ずかしい思いをしたことがありませんでした。今年も、皆穏やかで仲良く、時間を守り、聞き分けもよく、爽やかな中学生集団であったと思います。ある先生から聞いた話ですが、すれ違った一般の方から、「すばらしい生徒さんですね。」「気立てのいい生徒さんたちですね。」と言われたそうです。「気立てがいい」とは、どのような仕草であったのだろうと想像しました。にこやかな挨拶、道をゆずる優しさ、問いかけにていねいに対応する素直さ、行儀のよい見学の態度など、きっと、相手の方の心を和らげてくれるような対応があったのだろうと思います。どこの中学校だろうと後ろ姿を見送る様子が心に浮かび、幸せな気持ちになりました。『旅の恥はかき捨て』という言葉は、しばらく聞いたことがありませんでしたが、このような自己中心的な言葉は、なくなってほしいと改めて思いました。

何はともあれ、３年連続、心穏やかに修学旅行の引率を終えました。解散式で、「皆さんを更に見直しました。今後にも期待しています。」と述べました。本音です。

「とちぎの子ども育成憲章」について

５月２５日（木）、下都賀地区青少年育成推進連絡協議会に参加しました。その席で、『とちぎの子ども育成憲章』を斉唱しました。この『憲章』は、県民が力を合わせて子どもを健全に育てていくために、大人が具体的に取り組む姿勢を分かりやすく示したものです。すでにご存知の方がたくさんいらっしゃるかも知れませんが、斉唱してみて、改めてその意義を感じましたので、リーフレットを利用して、概略をお知らせします。

大人の責任と役割・・・キーワード：『命』『思いやり』『自覚』『手本』『継承』

○　一人一人を尊重し、命を大切にする。

子どもたちが自己肯定感をもち、「自分は大切な存在であること」、「自分の命も他人の命も大切であること」に気付けるよう、子どもたちと向かい合いましょう。

○　関わりを深め、思いやりの心をはぐくむ。

子どもたちが、「誰もが支えられて生きていること」に気付き、喜びや悲しみ、痛みをともに分かち合えるよう、思いやりの心をはぐくみましょう。

○　社会の一員としての自覚を育てる。

子どもたちとともに学び、喜び合い、励まし合いながら、子どもたちを社会の一員としての自覚をもった人に育てましょう。

○　子どもたちの手本となるよう行動する。

子どもたちは、絶えず大人の姿を見ながら成長しています。家庭や学校、職場、地域などにおいて、子どもたちの手本となるよう、責任ある行動や態度を示しましょう。

○　豊かな自然、伝統、文化を引き継ぐ。

子どもたちは、郷土の自然･伝統･文化などから、生きる知恵を学び、人間性豊かに育っていきます。郷土“とちぎ”の豊かな自然、すばらしい故郷の伝統･文化を子どもたちに引き継ぎましょう。

これはおすすめ私の一冊

『典子４４歳　いま、伝えたい』
白井　のり子（しらい　のりこ）著　　光文社　１１４３円

この本は本校職員のＨ・Ｈ先生からお借りしました。『典子は、今』という映画のＤＶＤをお借りしたときに、一緒に貸してくださったものです。典子こと辻典子さんは、母親が服用していた睡眠薬に配合されていたサリドマイドの影響で、両腕のない状態で生まれてきました。両腕がない分、足が手の代わりをし、食事の箸や洗面･歯磨き、勉強時の鉛筆操作も、難なくやってのけます。驚いたのは、裁縫の時間のミシン針への糸通しまで、（見た目には）簡単に行いました。だれに教わったわけではなく、自然にできるようになったのだと言います。それは、手のある人が、もののつかみ方を教わることなくつかめるのと同じだと言うのです。

小学校の入学式の時に、校長先生が「皆さんの中におててのないお友達だちが入学しました。」「仲良く助け合って親切にしてくださいね」と言われたとき、新入生百四十八名全員が大きい声でいっせいに「はーい！」と返事したそうです。筆者はその返事を「ほんものでした。」と述べています。事実、それから６年間、一度もいじめられたことがなかったのだそうです。その後高校を卒業して、熊本市役所に就職し、結婚、出産、子育て、そして、現在は講演活動を行っている４４歳。その間、順風満帆、なんの苦労もなくきたわけではなく、他からの心が傷つく言葉や思春期時の悩み、進路などについても、表面は平静を装いながらも心穏やかではいられない日々を過ごしたそうです。

この本の中で、子育てについて述べた部分があります。「しつけというよりは、日頃の親子の会話を大切にしたつもりです。いつも子どもとの距離を保っておくことを心がけました。特に日常の挨拶と言葉遣い、目上の人への丁寧語、謙譲語についてはうるさいほど指摘しました。」「また、他人に迷惑をかけてはいけない、他人を悲しませるようなことをしてはいけない、という基本的なことについても十分言い聞かせてきたつもりです。それは、わたくしが小さいときから母や学校で言われてきたことです。」そしてこう結んでいます。「人格はＤＮＡより環境で育まれると思っています。血筋より、いま身近にいる大人の影響を受けるのではないでしょうか。」私は、ＤＶＤ視聴後にこの本を読みました。なかなか手に入りにくい本（２００６年発行）とＤＶＤ（１９８１年制作）ですので、少し詳しく紹介いたしました。

お知らせ

２年１組のＩ・Ｍさんが、平成３４年度国民体育大会強化指定選手（卓球）に栃木県卓球連盟から認定されました。これまでの実績が認められ、来る栃木国体に向けて、大いに期待される選手に対しての認定です。今後も更に実力アップを目指して頑張ってほしいと思います。おめでとうございます。

校長室の窓から

○　５月９日（火）、修学旅行を間近に控えた朝、昇降口で一緒になった３年生とあいさつを交わしました。「修学旅行、楽しみだね。」と声をかけました。「はい！あっ、校長先生、一緒に行ってくださるんですよね。よろしくお願いします！」ときちんと頭を下げてお辞儀をしました。「やあ、こちらこそ、よろしくね。」と少しどぎまぎしながら答えました。とてもうれしい気持ちと同時に、この時もまた、“すごいなあ。自分が中学生の時、こんな対応は絶対にできなかったなあ”と思いました。

○　修学旅行中お世話になったタクシーの運転手さんから聞いた話です。お祭りで華やかに着飾った人が、山車に乗って進んでいく。その山車をひく人、着物を縫う人、着せる人。その人たちを『おかげ様』というのだそうです。「たいがいのものは、『おかげ様』のおかげで成り立っている。修学旅行の生徒さんもおんなじです。おうちの人があれやこれや用意してくれたり、先生方が早くから計画して指導してくれたり・・・。みな『おかげ様』がいました。そのことに気づいて感謝する心をもつのが大切なのですね。」

私は、よい出会いがあったなと思うと同時に、私の『お陰様』に感謝しました。